

2024年度 シラバス

科目名	動物栄養学Ⅰ		単位数	1	科目コード	NA2406		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物学」に位置する授業。「動物栄養学Ⅰ」と「動物栄養学Ⅱ」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物栄養学」の履修となる。5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得す							
授業の一般目標	1. 基礎栄養 1) 5大栄養素(糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル)について理解する 2) 栄養要求の種差(必須アミノ酸、必須脂肪酸など)について理解する 3) 食性、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する 4) 健康維持における栄養の持つ意味について理解する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	大栄養素とその代謝について説明することができる。2. ライフステージや疾患別の療法食について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
5大栄養素+水(6大栄養素)を理解し、ライフステージによる栄養管理や疾患別による栄養特性を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物栄養学総論①	6大栄養素 (1. タンパク質、2. 脂肪 (脂質))						
第2回	動物栄養学総論②	6大栄養素 (3. 炭水化物、4. ビタミン、5. ミネラル、6. 水)						
第3回	動物栄養学総論③/犬猫の必要栄養素の違い	過剰症と欠乏症/食性の違い						
第4回	ペットフードの表記	ペットフード安全法で規定されている表記						
第5回	ライフステージによる栄養管理①	犬のライフステージについて (成長期、維持期)						
第6回	ライフステージによる栄養管理②	猫のライフステージについて (成長期、維持期) 犬と猫の加齢性変化						
第7回	ライフステージによる栄養管理③	繁殖期・妊娠期・授乳期の栄養管理						
第8回	B C S評価およびカロリー計算	B C Sとは/カロリー計算 (食物のカロリー・犬や猫のエネルギー要求量)						
第9回	肥満と削腹/フードの給与回数、給与方法	肥満と削腹とは/フードのタイプ: 目的別の分類、給与回数、給与方法						
第10回	手作り食	嗜好性とは/ペットフードの適切な取扱い/手作り食						
第11回	疾患別による栄養特性 (下部尿路疾患①)	食事療法食の表記と取扱い/下部尿路疾患とは/猫の特発性膀胱炎						
第12回	疾患別による栄養特性 (下部尿路疾患②)	尿路結石について①						
第13回	疾患別による栄養特性 (下部尿路疾患③)	尿路結石について②						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/			

2024年度 シラバス

科目名	ペット関連産業概論		単位数	1	科目コード	ND2407		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「愛護・適正飼養学」に位置する授業。 ペット関連産業に従事する者として職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼育のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。							
授業の一般目標	1. ペット関連産業における職業倫理(行動倫理を含む。) 2) 商取引における関連法規の概要について理解する 3) 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する 2. ペットの飼養実態と市場規模							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ペット関連産業についてや動物取扱責任者としての職業倫理や業務内容を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ペット関連産業概論	ペット関連産業と動物看護師				-		
第2回	ペット業界の歴史	ペット業界の歴史について				-		
第3回	ペット関連産業における職業倫理①	1. ペット関連産業における責任と社会的役割				教科書 P. 265～267		
第4回	ペット関連産業における職業倫理②	2. 商取引における関連法規の概要 3. 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法				教科書 P. 268～274		
第5回	ペットの飼育実態と市場規模	1. ペットの飼育実態～3. ペット産業全体の市場規模				教科書 P. 279～287		
第6回	各ペット関連産業の現状と課題①	1. ペット産業の分類(グループワーク)				教科書 P. 291～292		
第7回	各ペット関連産業の現状と課題②	2. 動物病院の現状				教科書 P. 292～295		
第8回	各ペット関連産業の現状と課題③	3. 動物病院以外のサービス業の現状～6. その他ペット産業の現状				教科書 P. 295～301		
第9回	各ペット関連産業の現状と課題④	グループワーク：ペット産業のそれぞれについて				-		
第10回	動物取扱業①	1. 動物取扱業制度の概要				教科書 P. 305～312		
第11回	動物取扱業②	2. 動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法および衛生管理				教科書 P. 313～319		
第12回	半期まとめ	各グループに分かれて半期の内容をまとめる				-		
第13回	まとめ内容発表	12回目の内容の発表(半期振り返り)				-		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					20	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2024年度 シラバス

科目名	動物愛護・適正飼養実習		単位数	2	科目コード	NE2408		
授業形態	実習		対象学生	3年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	通期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業。 動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	1. 動物の基本的な取扱い 2) 動物種に応じた安全なハンドリングができる 3) 動物を安全に散歩・運動させることができる 4) 犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具(首輪、胴輪、リード、おもちゃなど)を選択することができる 5) 基本的なグルーミング(シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門腺処置、口腔内衛生管理など)を実施できる							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」 参考書:(著)向後 千春「世界一わかりやすい教える技術」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	-							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	説明対象・動物種に合わせた適正飼養管理指導ができる。							
授業計画(全体)								
後期には、動物看護科1年生とともに小動物の飼育実習を行い、その1年生を指導する。前期(15回)では、その準備を行う。 ※実習中は必ず実習服を着用していること。 「愛玩動物学Ⅰ」「愛玩動物学Ⅱ」「適正飼養指導論Ⅰ」「適正飼養指導論Ⅱ」各授業配布資料を持参し、授業に臨むこと。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	授業概要 適正飼養(指導)とは	授業概要の説明 愛玩動物における適正飼養、またその指導について考える。						
第2-4回	動物飼育環境の改善	現在の動物飼育環境やハンドリングにおける問題点の抽出、その改善を行う。						
第5回	指導方法①	スモールステップ法で指導する。						
第6回	指導方法②	KPT法で指導する。						
第7回	指導方法③	指導時に感情をコントロールする。						
第8-11回	「指導の質」の向上・統一	指導の質を統一するための指導用コンテンツを作成。						
第12回	指導用コンテンツの運用	作成した指導用コンテンツを運用して指導が可能かを検証(ロールプレイング)						
第13回	指導用コンテンツの最終調整	運用してみたコンテンツの不備を修正する。						
第14-15回	指導用マニュアルの作成	指導用コンテンツを活用できる指導用のマニュアルを作成						
第16回	動物飼育指導実習ガイダンス	動物看護科1年生と合同で授業ガイダンスを実施。						
第17-22回	動物飼育指導実習Ⅰ	作成したマニュアルを運用し、実際に動物看護科1年生に対して動物飼育方法(適正飼育環境・ハンドリング方法)を指導。					動物看護科1年生と合同で授業	
第23回	中間確認	指導用コンテンツ・マニュアルを使った動物飼育指導実習を振り返る。					3年生のみで実施	
第24-28回	動物飼育指導実習Ⅱ	前回振り返った改善案を使用して1年生への指導					動物看護科1年生と合同で授業	
第29回	動物飼育指導結果確認	1年生と一緒に単位認定試験に参加する。					動物看護科1年生と合同で授業	
第30回	指導を振り返って	1年生を指導してきた半年を振り返って、自身がこの授業を通して身につけたスキルを確認する。					1年生の授業終了後、3年生のみで実施	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			30	可(D):69点~60点
発表・作品		○	○	○	◎		50	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2024年度 シラバス

科目名	動物看護総合実習 I			単位数	1	科目コード	NE2409	
授業形態	体験型実習			対象学生	1年生	開設期	通期	
区分	必修			開設時期	通期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	<p>愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業 「動物看護総合実習Ⅰ」と「動物看護総合実習Ⅱ」、「動物看護総合実習Ⅲ」で構成されており、これらの履修を以て愛玩動物看護師カリキュラム「動物看護総合実習」の履修となる。 「オリエンテーション」を受け、動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 ・獣医師・看護師の業務内容を把握する。 ・動物病院の施設見学をし、施設の概況や機能を理解する。 ・動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解する。 ・学習者として適切に行動できるように社会常識やマナーを実践する。 ・学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。</p>							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 動物看護業務の理解 <ol style="list-style-type: none"> チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解する 動物診療施設を見学し、設備や機能を理解する 愛玩動物を適正に管理する方法について理解する 動物看護業務の体験 <ol style="list-style-type: none"> 診察室における獣医療補助行為を体験する 各種検査や処置、外科手術の補助を体験する 入院動物の看護を体験する 動物看護業務の実践 <ol style="list-style-type: none"> 実際の動物診療施設で、診察室における診療の補助を実践する スタッフと連携協働し、チーム獣医療を実践する 動物看護計画を立案し、実践する 飼い主に対し適正飼養及び療養生活の指導を実践する 							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	-							
授業計画(全体)								
学内での事前・事後学習および動物病院内での実習授業。 ※実習中は必ず実習服を着用していること。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	事前学習	オリエンテーション：実習の目的・目標を知る。各種書類配布および記入						
第2回								
第3回	動物病院実習<見学>	各自で選んだ動物病院にて、合計2日間の見学実習						
第4回								
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回	事後学習	自己評価、ポートフォリオ（実習記録、課題）の記入および発表						
第15回								
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S) : 100点～90点
小テスト							-	優 (A) : 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	◎	○			50	良 (B) : 79点～70点
授業態度			○	◎			30	可 (D) : 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E) : 59点以下
演習							-	
出席			◎				20	
担当教員	北村 昌樹、小林 永実			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2024年度 シラバス

科目名	動物飼育実習 I		単位数	1	科目コード	NI2401		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	愛玩動物学 I 学んだ知識を用いて正確性、迅速性を身につけ、飼育を行うことができる。							
受講条件	愛玩動物学 I の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	本校飼育動物の適正と言われる飼育について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して個人のスキルアップから観察力のアップ、そして質の高い飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	事前準備 1	飼育を取りかかる前の確認				講義		
第2回	飼育時の留意点 1	飼育時の留意点を確認						
第3回	協働で質の高い飼育を目指す	伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける						
第4回	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す	伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第5回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 1							
第6回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 2							
第7回	チームを意識した高い飼育を目指す 1							
第8回	チームを意識した高い飼育を目指す 2							
第9回	コミュニケーションを活かし質の高い飼育を目指す 1							
第10回	コミュニケーションを活かし質の高い飼育を目指す 2							
第11回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 1							
第12回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 2							
第13回	試験の説明・準備					今まで勉強したことを踏まえ、その動物の飼育についてのポスターを作る		
第14回	試験準備							
第15回	期末試験(発表)	まとめたポスターを用いて、その動物の飼育についての発表を行う				※飼育は当番学生のみで行う。		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎	○	○	○		60	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2024年度 シラバス

科目名	動物飼育実習Ⅱ		単位数	2	科目コード	NI2402		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。							
受講条件	動物飼育実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、グループとして適切な解答ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	グループでコミュニケーションをとり、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して個人のスキルアップから観察力のアップ、そして質の高い飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	観察力アップから質の高い飼育を目指す							
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回	自己評価から質の高い飼育を目指す							
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回	飼育実技試験						グループで、担当動物の飼育を正しく行う事ができる 飼育動物の生態・習性などについてを口頭で説明する事ができる	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎	○	○	○		60	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2024年度 シラバス

科目名	動物飼育実習Ⅲ	単位数	1	科目コード	NI2403			
授業形態	講義	対象学生	3年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。							
受講条件	動物飼育実習Ⅱの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、個人で適切な解答ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	チーム医療を意識し、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して質の高い飼育を目指し、動物看護師として倫理観を備えた飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す	動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す							
第6回								
第7回								
第8回								
第9回	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す							
第10回								
第11回								
第12回								
第13回	学年末試験①	2チームに分かれ、前半組が実習試験 後半組は筆記試験を行う			※飼育動物の頭数・ストレスを考え、学年末試験は2回に分けて行う ※学生証が必要			
第14回	学年末試験②	前回のチームで、後半組が実習試験 前半組は筆記試験を行う						
第15回	飼育実習の総括	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			